

法人広報誌



第36号

令和5年6月30日

発行者

社会福祉法人 つどいの家
理事長 佐藤 清
〒984-0838 仙台市若林区
上飯田一丁目17-58
TEL 022 (781) 1571
FAX 022 (781) 1573
<https://www.tsudoinoie.or.jp>

心からの笑顔 ✨ みんなに届くといいな～



なんだか楽しい 踊りたくなっちゃった



見てこれ！ なんだと思う？



お洋服とお花の色、お揃い！ いいでしょ

～コロナ前のように活動できることを願って～

理事長 佐藤 清



新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対する対策を徹底しながらそれぞれの事業を運営する日々も3年を過ぎました。重度の利用者が多いつどいの家にとっては影響も大きく、昨年度、コロナ関連で延べ1,000人日を超える通所欠席者が発生するなど運営が大きく制限されたほか、感染拡大に伴うサービスの利用・提供控え、突発的な事情による中途退所なども相俟って経営環境は極めて厳しく、2年連続の赤字決算という結果を招いてしまいました。

つどいの家は、利用者本人の意思を大切に、個人の特性を理解したうえで本人主体の個別支援を進めることを行動指針としており、多くの重度の利用者を支援するため国の給付費算定上の想定基準を上回る数の多くの担い手を確保し、使命感や専門性を高め本人理解を深めながら運営するように努めています。こうした支援を、日々の通所者数に応じて担い手をその日その日で都合よく確保して実施することはできず、また、基本報酬を抑えて人員配置による各種加算に誘導するような制度設計もあり、運営費用に占める人件費の比率が極めて高い事業構造とならざるを得ません。そのため、低いレベルの給付費単価設定に加え、通所控え等による支援の実績の減少が収入の減少に直結する現行制度の下では、事業運営の困難は暫く継続するものと覚悟し、制度的に認められている収入確保策を徹底的に追及するなど工夫を重ね続ける必要があります。

決算年度においては、このような環境の中でも、市中の感染状況を見極めつつ、地域交流等各種イベントの工夫を凝らし

ながらの開催、外出活動の緩和と制限の適時見直し、介護職員初任者研修事業の拡大、ガイドヘルパー養成講座開設準備、集客による上映会開催等啓発活動、国において見直しの動きがある中で成年後見に関する調査研究着手等を行えたことは、今後の活動につながるものと考えます。

コロナは、病状も後遺症も特效薬がないことも変わらないのに、感染症法上の分類が5類となって平常時に戻るとの触れ込みがあふれ、みなし通所の特例措置の廃止も伝わってくるなど感染対策や様々な支援措置が見直されてきています。日本社会全体として、各分野に及ぶこれまでの特例的対応を維持することが困難で、一旦平常の体制に戻すことが必要なのかもしれませんが、先人たちの努力で築き上げてきた福祉各分野の資源が疲弊してしまわないか心配になります。

福祉分野以外を見渡してみても、入管難民法改定問題や技能実習生制度、放っておかれたままの選択的夫婦別姓、多様性の尊重など日本が世界標準から外れ、非常識と見られはしないか気になります。更に、ウクライナ侵略は先行きが見通せませんし、諸物価の高騰、楽天もベガルタも振るわず・・・と、何かと心配事の多いこの頃ですが、ここは気持ちを切り替え、何よりも利用者の皆さんが以前と変わらずに通い、活動できるようになることを願い、事業資金をつないで本人、ご家族、我々支援者にとっての大きな山を乗り越え、事業運営の安定、継続を実現できるよう全員の力を合わせて取り組んでいきたいと思います。

～令和4年度を振り返って～

令和4年度を振り返るにあたり、ここ数年のコロナ感染拡大による影響に加え、昨今の国際情勢の変化や経済・金融市場等の不安定化もあり、ますます法人経営（特に財務的な側面）の厳しさが増えています。また人と人との繋がりや関係性が希薄となったことでの様々な弊害を改善し、以前のような（つどいの家らしい）活動を取り戻すことを目標に掲げ取り組んできましたが、長引く感染症への不安は大きく、それを乗り越えることの難しさを実感した一年でもありました。運営する事業の利用状況をみても、多少の回復はあるものの、まだまだ以前の実績には及びません。

そのなかで閉塞感を払拭し、次に繋げるための種まきとなる取組みをいくつか紹介します。

一つ目は、移動支援事業の担い手（ヘルパー）確保がこの事業の生命線ですが、報酬体系にかかる構造上の課題やしょうがいのある人の社会参加等のニーズの特性（土日に利用が集中）からも常勤スタッフのみで人的体制を構成することができません。当法人においては令和元年度から宮城県の指定を受けて介護職員初任者研修を行い、人材養成にも取り組んでいましたが、その研修期間の長さ（概ね2ヶ月）から、実際に就労に繋がった数も少なく、人材確保と事業拡充には具体的な成果を得るに至っていませんでした（資格を有していない在職職員に対する研修としての効果は十分に得られています）。そこで行政折衝を経て、ガイドヘルパーをもって当該事業の主たる担い手とするべく、新たに養成講座の開講を目指し、総務部とヘルパー事業

所（ぺんたす）等でその準備にあたりました。実際に取組んだ職員の創意工夫と先進事例を学ぼうとする行動力もあって、令和5年度より新たな取組みができそうです。

二つ目に、つどいの家が長らく家族支援に携わってきた経験を活かし、しょうがいのある人の兄弟姉妹（きょうだい）が抱える特有の悩みや諸課題を地域ぐるみで支える仕組みと体制を構築するため、総務部内でプロジェクトチームを構成し、ワークショップを実施しながら具体的な実践に向けて協議を重ねてきました。こちらも令和5年度より地域住民や関係機関等との連携・協働の機会を設け、具体的に進めていきたいと考えています。

三つ目に、重いしょうがいのある人の成年後見制度の利用実態を把握し、また制度の諸課題を明らかにしながら、親亡き後の諸問題を見据えつつ、しょうがい者の権利擁護と意思決定支援がなされた制度運用が行われるよう、みずほ福祉助成財団の助成事業を活用し、宮城県内相談支援事業所や生活介護事業所等の従事者を対象に、アンケート調査を実施しました。令和5年度においては調査で得られた知見など、研修会を通して支援者間と共有するとともに、行政や社会に対する政策提言に繋げることを目標として取り組んでいく予定です。

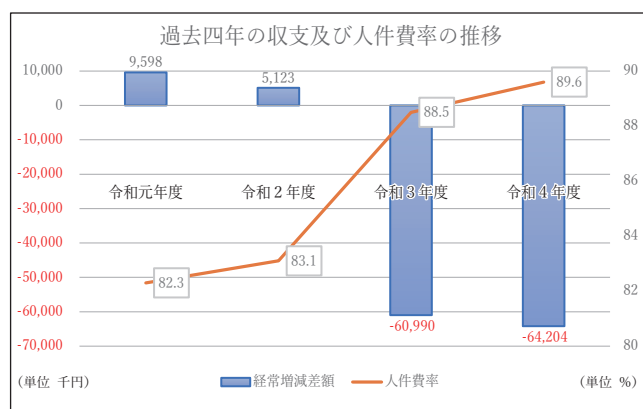
この他の取組みについては、事業報告書としてホームページに掲載しますので、そちらも併せてご高覧いただければ幸甚です。今後とも皆さまのご支援をどうぞ宜しくお願いいたします。

総務部長 佐藤 吉久

令和4年度つどいの家決算報告

令和4年度決算は令和3年度同様、経常増減差額において6,000万円以上の赤字となりました。新型コロナウイルス感染拡大の令和2年度以降、利用実績に影響し収支にも多大な影響が及んでいます。そのような状況下においても、社会福祉法人として利用者及びご家族のセーフティーネットとなるようなサービス提供体制が保てる人員配置の維持に努めてまいりました。令和5年度以降はガイドヘルパー養成事業をはじめとした新たな事業展開に取り組みながらも、既存事業の運営の安定、継続を目指し、財務状況改善に取り組んでいきます。

総務課 阿部 幸生



※令和2年度は過去分遡及の実績分20,000千円を除く数字となっております。

日中活動支援事業部

令和4年度を振り返るにあたって、やはり新型コロナの話題は避けて通れないものがあります。が、毎年『コロナコロナ』と言っているのも癪なので、今年は違う話題から。

令和4年度は日中活動支援部門にとって大きな転換の年でもありました。

『コペル』・『アプリ』・『仙台』の各事業所はこれまで併設してきた『特例生活介護』を廃止し、10月より本体の生活介護事業に統合しました。特例生活介護に通所されていた、医療的ケアを含む重症心身しょうがいの方たちは本体の生活介護事業に転籍されましたが、これにより職員の人員配置体制や看護師配置体制が改善され、各種加算の取得により財務状況の安定につながるものと期待されます。

『八木山』は平成28年度の生活介護事業への移行以来営業してきた喫茶を1月末で閉店しました。コロナの感染流行による店休の機会増に加えて、利用者さんの活動環境の改善などを目指した苦渋の決断でしたが、お店を愛してくれたお客様とはまた新たな形での交流の機会を模索していきたいと考えています。

『若林障害者福祉センター』は設置主体である仙台市の制度改変により、これまで運営してきた『自立訓練（生活訓練事業）』の委託が外され、生活介護事業のみの運営となりました。センター開所以来、有期限の生活訓

練事業を利用し移行された方は多数おられます。他法人による事業実施に際しても、利用者さんのために協力しながら進めていければと思います。

そして…コロナです。仙台市内では令和4年度も断続的に新型コロナの感染流行が起こり、つどいの家でもクラスター発生により数日間の休館を余儀なくされた事業所もありました。そんな中でも日中活動各事業所では、感染状況を注視しつつ緩急をつけた活動を心掛けてきました。『今年こそは』と意気込んで準備した夏まつりは、市内の感染者数増加により直前で中止の判断をせざるを得ず残念でしたが、日常の外出活動などは感染者の減少した時期を見計らって計画・実施してきました。また、ミニバザーやマルシェ、中学校の職場体験実習の受け入れなどの地域交流も、規模を縮小し細心の注意を払いながら開催にこぎつけることができました。さらに各種研修や施設間交流もコロナ禍で当たり前となったwebを活用して実施してきました。

感染症法上の位置づけが5類になったからといってウイルスの何が変わったわけでもありませんが、一方で足踏みばかりをしているわけにもいきません。令和5年度はこれら一つひとつの取り組みをさらに加速させ、コロナ禍前の日常的な人と人とのつながりを取り戻す1年にしていきたいと考えています。

日中活動支援事業部長 山口 収

～地域生活支援事業部の令和4年度を振り返って～

居宅介護事業

利用者のなかにはマスク着用が難しい方が多く、利用者、ヘルパーともに新型コロナウイルスの感染拡大防止に十分注意しながら支援にあたりました。「ぺんたす」（移動支援）は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用時間、場所等に制限を設け、サービス提供を行いました。令和4年度は前年度よりも利用実績が40%程回復しましたが、コロナ禍前に比べるとまだまだ低調となっています。令和5年度は利用制限を一部緩和しますが、もうしばらくは制限が続く見通しです。「ぴぼっと」（グループホームにおける居宅介護）では、特定事業所加算の取得のための準備を行い、2月に特定事業所加算を取得しました。日々のヘルパー記録（報告書）の活用によりグループホームで居宅介護を担うヘルパーとの情報共有を図っています。

短期入所 / 日中一時支援事業

昨年度に引き続き、法人内外の新型コロナウイルス感染による利用キャンセル、利用控え等が多くみられました。また、事業所内が密になる環境を回避するため、利用定員を抑えながらサービス提供をしました。令和4年度は日中一時支援、短期入所ともに利用実績が前年度比マイナス20%程でした。3月末現在の登録者数は250名程度（男性6割、女性4割）で年齢は10歳未満～50歳代以上と広範囲になっています。ぴぼっと支倉「だいち」は、ぴぼっと支倉全体（保育所隣接）の大規模改修工事を予定していましたが、工事着工の遅れにより改修工事の時期は未定となっています。令和5年度内には工事が見込まれるため、移転後約1年間は移転先での事業継続となります。「だいち」「すてっぷ・はうす」で連携し、スムーズに移転できるよ

うに進めていきたいと思います。「すてっぷ・はうす」では介護ロボット補助金を活用し、入浴用の介護機器を設置しました。

指定相談・委託相談

コロナ禍のためできる限り訪問時間の短縮や対面を減らし、電話やメール、オンラインによる会議等に対応することを心がけました。相談支援事業（計画相談 / 委託相談）は、障害種別を超えた対応が求められ、ケースレビューや事例検討等を行い、事業全体のスキルアップを図っています。令和4年度は「とびら」「くれよん」で連携し、新任職員を対象とした座談会の実施、相談事業としてのリスクの洗い出しと対応の検討を行いました。ICT 補助金を活用し、「とびら」はプロジェクター用スクリーン、パソコン、「くれよん」はモバイルパソコンを購入しました。「くれよん」では社会福祉士養成校からの社会福祉援助技術実習生2名の受け入れを行い、福祉の将来を担う人材育成に努めました。

福祉有償運送事業

法人内ではぴぽっと南光台（すてっぷ・はうす）のみで実施しています。登録者数は9名で福祉有償運送に代わるサービスを利用す

ることが難しいため、個別に対応しています。今年度の福祉有償運送事業の運行回数は、コロナ禍の影響もあり5件（前年度比マイナス72%）と激減しました。

共同生活援助事業

昨年度に引き続き日々、新型コロナウイルス感染症対策を実施し、感染防止に取り組みました。8月末～11月にかけて3箇所のグループホームで合計8名の入居者の感染があり、長期間グループホームでの療養生活となりました。感染者等が発生した際には、グループホーム内でのゾーニング（生活空間の区分け）を行い対応しました。療養期間中は、法人内事業所全体で職員が一丸となり、グループホームのバックアップを行い、支援体制の確保に努めました。昨年1月末に新型コロナウイルスに感染し、その後他の症状の発症に伴い長期間入院をされていた入居者の方が身体状況の低下に伴い、グループホームを退去され、介護施設へ転居されました。ICT 補助金を活用し、記録システム（ブルーオーシャンノート）の導入を行い、日々の入居者の様子等についてホーム - サービス管理責任者 - サービス提供責任者 - 看護師 - 管理者が一体的に情報を共有できるようになりました。地域生活支援事業部長 飯田 克也

実践発表会報告

つどいの家では、3年前より「実践報告会」を実施しております。法人内の研修を企画・実施しております職員研修委員会では、従前より実施していました法人研修への参加率の低迷が課題として挙がっておりました。それは、実施事業が多岐に渡った事で、夕方に予定を組む研修には、地域生活支援のグループホームやヘルパー業務職員の参加が難しく、日中帯に組む研修には、日中支援の通所職員の参加が難しいことでした。また、法人の規模が大きくなったことで、職員同士の交流が少なくなった実態も課題としてありました。その現状を打破すべく、この実践報告会を企画し、“チーフ職の活躍にスポットをあて、事業所の取り組みを可視化し達成感を共有する。職員が集い、互いをたたえ合い親睦を深める”を意図とし、令和2年度から開催する予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、“職員が集い、親睦を深める”ことを実行することは、断念せざるを得ませんでした。しかし、歩みを止めてばかりはいられないので、「実践報告会」はインターネットを活用し各事業所をつなぐ形式で開催するに至りました。

令和4年度は3回目を迎え、研修目的を「外部の方達につどいの家の実践を伝える」とこととし、4年度は法人全事業所の発表ではなく日中支援事

業所の5事業所が発表者となり、テーマを「サービス等利用計画と個別支援計画の連動性（活動はどのように立てているのか）」「新型コロナウイルス・ビフォーアフター」と設定いたしました。新型コロナウイルス感染症の第7波が広がる中、各所工夫を凝らし資料作成に奔走しました。各日中支援事業所は、利用者お一人おひとりの個別支援計画に則り年間を通して支援を進めておりますが、利用者像が異なれば事業所の規模、地域も異なることから支援計画は個性があり千差万別です。“サービス等利用計画とは何か”を深めた事業所、利用者1人に焦点を当て個別支援計画をどのように進めたか、を発表した事業所があり、各事業所のカラーが光り、各所の取り組みを知ることができた日中支援事業所職員のみならず、地域生活支援事業所職員の学びにつながりました。

令和5年度は、地域生活支援事業所が発表担当となります。所属事業所が異なるとどのような取り組みをしているかわからない事が多くありますが、それは日中支援と地域生活支援となると更に多くなります。実践発表で法人内事業を知り、それを持ってつどいの家の取り組みを外部に向け自信を持ち伝えられるような取り組みにしていきたいと考えております。

若林障害者福祉センター 小原 弥生

ガイドヘルパー養成講座

皆さま、ガイドヘルパーという資格をご存知でしょうか。当法人のホームヘルプサービス事業でも行っております「移動支援」に従事できる資格です。移動支援はしょうがいのある方の外出をサポートし、休日の買い物や食事などの余暇活動以外にも、サークル参加や役所の手続きなど社会活動や社会参加につながる支援の1つです。



自己実現や生活の充実を図ることができるサービスですので、利用希望は非常に多いです。しかしながら、担い手不足という福祉業界全体の大きな課題があり、外出したくてもできない方がたくさんいらっしゃいます。そこで、令和5年度より当法人でガイドヘルパー養成講座を開講し、ガイドヘルパーによる移動支援の提供を実施していくこととしました。

ガイドヘルパーという資格は以前からありましたが、現在、資格取得のための養成講座を実施している団体は宮城県にはありません。カリキュラムは講義・演習を合わせて16時間と、介護職員初任者研修（旧ヘルパー2級）と比べて8分の1程度の短期間（2日～3日間）で取得ができ、これまで担い手として少なかった学生の受講が期待できることから、昨年度より検討を行い、先進地の視察研修を経て開講準備を進めて参りました。



日頃よりお世話になっている大学の先生を通じて、4月下旬～5月上旬に学校を訪問し、学生にガイドヘルパーについての説明をしながら講座受講を呼びかけたところ、多数の申し込みをいただき、年4回（6、8、10、1月）予定している講座の10月までがあっという間に定員となりました。

「しょうがいのある方に関わりたい」「しょうがいについて学びたい」「しょうがい分野の仕事に興味がある」という受講志望理由が多く、学校側からもしょうがい分野を学ぶ機会や実践経験の場が少ないことが課題だとお話されていたことを実感しました。

ガイドヘルパーはしょうがいのある方の外出のサポートだけではなく、学生などの若い世代の方がしょうがい理解を深める目的も果たしていくと考えています。一方的に支えられるのではなく、しょうがいのある方が理解者、協力者を育てる役割を担い、互いに支え合う社会を構築していくことは、当法人の目指すところでもあります。

一緒にサポートしませんか？
つどいの家ガイドヘルパー養成講座

ガイドヘルパーとは？
しょうがいのある方と一緒に外出し、一人ではできないことをサポートします。

受講料は？
なんと・・・
0円(^^)/

最短2日間で資格が取れる！やりがいがあって色々な経験ができます！

どんな外出をしているの？

電車に乗ったり！ 映画を観たり！ カラオケで歌ったり！

外出先は人それぞれ！ 私たちのサポートで利用者さんの楽しみがどんどん増えていきます！

ぴぽっと南光台（べんたす）
東区南光台3-1-24
TEL. 022-779-7341
地下鉄南光台「南光台駅」から徒歩10分

法人ホームページ

本講座は、多くの学生に受講してもらえようテキスト代も含めて無料で実施しますので、継続していくための運営費が必要となります。しょうがいのある方の自己実現、若い世代の学びと活躍の場となるガイドヘルパーの養成事業に対し、多くの皆さまからのご理解とご協力をいただけますと幸いです。

法人ホームページ寄付フォームからご寄付いただけます。

■QRコードを読み取り、寄付フォームに入力し、クレジットカードまたは銀行振込で寄付できます。

※5,000円で一人の学生が支援者になれます

- ・寄付の用途は
- 2. 特定の活動やプロジェクトにかかる資金を選択。
- ・ページ下の備考欄にガイドヘルパー育成とご入力ください。



仙台市ICT導入モデル事業補助を受けて

地域生活サポートセンター ピボット若林より

この度 ICT 導入モデル事業の補助を受けてグループホームの支援記録作成に使用するシステム『ブルーオーシャンノート』を導入いたしました。これまでグループホームの支援記録は手書きの書面への記録で行なっていましたが、システムを導入することで記録をデジタル化することができるようになりました。記録をデジタル化したことで、離れている各ホームの状況をリアルタイムで共有でき、さらには過去の記録を容易に検索できるようになりました。また、入居者の支援に必要な記録の項目を明確にすることで、効率的に業務に取り組めるようにもなりました。（大幅にペーパーレス化することもできました！）

支援の基本となる記録をより活用していくことで、より質の高い支援につなげていきたいと思います。

【実際に使用している現場からの声】

- ・紙の記録よりも記入（入力）の手間が省けるようになった。
- ・記録を確認したいときにすぐに確認できるようになった。振り返りもしやすくなった（今までは通所しているときは支援記録を確認できなかった。）
- ・支援者間で共有したい入居者に関する大事なことに付いて、伝え忘れが減った。（記録で共有が必要な箇所は色付けして表示することができる。）
- ・iPad・PC・モバイル PC と複数台の端末で記録できるため、効率的になった。
- ・日々の健康の状態の経過を集約して把握でき、通院の際に活用しやすい状況になった。

グループホームサービス管理責任者
佐藤 靖志

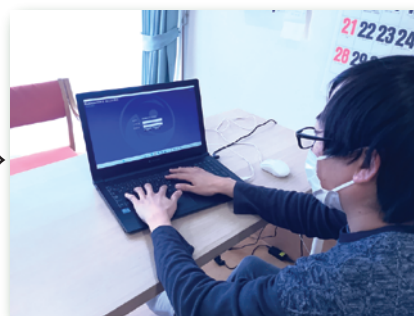
各ホーム



管理センター



各ホーム



リアルタイムな
情報共有

ペーパーレス化
業務効率化

地域生活サポートセンター ピぼっと支倉より

相談支援事業では、福祉サービス事業所の見学など社会資源の開拓をして、利用者と事業所をつなげることも必要な業務です。これまでは福祉サービス事業所からの説明を手書きのメモに残し、事務所に戻ってからノートパソコンに打ち直す手間がありました。モバイルパソコンを導入して以来、その手間を省くことができました。なお、個人情報の保護と取扱いに留意しながら使用しています。

また、法人内の権利擁護虐待防止委員会、研修委員会、防災委員会など様々な会議や

それに付随する打ち合わせに関しても、同様にメモからパソコンに移す手間を省略できています。

事業所内においても、プロジェクターとスクリーンを、職員のミーティングや研修に活用しています。小さな事業所ではありますが、プレゼンテーションの機会としても有意義な時間になっていると思います。

こういったこまかな業務効率化を重ねていくことは、利用者の支援業務に集中できる時間を増やすことや職員の働きやすい環境作りにもつながっていくと思います。

相談支援事業 加藤 仁

令和4年度

寄付者ご芳名

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

沢山の方々のご協力に心より感謝申し上げます。

赤井澤 勝子 様
浅野 昭子 様
(有)アド・フォート 様
(株)アトマックス 様
阿部 絢子 様
阿部 恵美子 様
阿部 孝光 様
阿部 敏行 様
阿部 悠紀子 様
阿部 洋子 様
阿部 留美 様
天野 清子 様
アルト 代表 古高亨 様
(株)アルファス計装 様
粟野 広 様
粟野 このみ 様
安藤 冷子 様
飯田 達夫 様
飯部 博人 様
イオンスーパーセンター(株)
イオンスーパーセンター鉤取店 様
イオン東北株式会社
イオン仙台幸町店 様
五十嵐 功 様
生江 哲夫 様
石井 知幸 様
石川 和雄 様
石川 隆太郎 様
石田 睦美 様
石道 敦 様
磯 学 様
磯部 明子 様
板垣 正人 様
一ノ瀬 和子 様
市橋 章子 様
伊藤 孝 様
稲木 俊夫 様
稲邑 恭子 様
今井 香好 様
今井 澄夫 様
入野 芳子 様
岩佐 加奈子 様
植松 亜佐 様
植松 和久 様
植松 明彦 様
牛袋 昭宣 様
大内 恭子 様
大窪 裕喜恵 様
大越 裕光 様
大沼 悦子 様
大村 武志 様
大山 真一 様
大和田 尚子 様
緒方 圭子 様
岡村 京子 様
小川 れい子 様
奥津 勇吾 様
奥野 和宏 様
奥野 陽子 様
尾崎 靖博 様
落合 文子 様
小野 真理子 様
(有)鍵屋商店 様
角田 スミ子 様
梶井 寛 様

梶野 正代 様
加藤 大輔 様
加藤 幸子 様
加藤 義晃 様
上遠野 千秋 様
株式会社 川島酒販
酒のかわしま 様
川名 はつ子 様
川股 ちぐさ 様
川村 裕子 様
菅野 道世 様
菊池 由香利 様
木村 美紀 様
木村 美矢子 様
(株)共栄防災 様
工藤 祐一 様
玄光庵 様
小泉 雄介 様
コーエンズ 久美子 様
後藤 啓二 様
後藤 宣男 様
小林 栄 様
小室 正人 様
近藤 ヨシ子 様
斎 益生 様
斎藤 孝二 様
斎藤 進 様
齋藤 秀夫 様
坂川 母土子 様
坂田 晴弘 様
佐久間 クラ子 様
佐々木 栄子 様
佐々木 真一 様
佐々木 敏明 様
佐々木 敏宏 様
笹口 ひろ江 様
佐藤 篤 様
佐藤 清 様
佐藤 功一 様
佐藤 章一 様
佐藤 泰司 様
佐藤 時子 様
佐藤 光 様
佐藤 宏 様
佐藤 広美 様
佐藤 正弘 様
佐藤 みい子 様
佐藤 三代子 様
佐藤 裕子 様
佐藤 由樹 様
佐藤 由紀子 様
佐藤 由美子 様
佐藤 芳直 様
佐藤 吉久 様
佐藤 吉弘 様
佐藤 理恵 様
(有)サンシン自動車 様
(株)ジェイアイシー 様
(株)ジェー・シー・アイ 様
塩川 裕子 様
志子田 喜恵子 様
(株)七十七銀行沖野支店 様
島田 秀子 様
志村 鎮 様
下郡山 和子 様

下郡山 徹一 様
庄子 綾子 様
庄司 孝志 様
庄司 博子 様
(株)庄子専助商店 様
食事サービスふたばの会 様
一般財団法人 白石庵敬神会 様
新港機工(株) 様
菅井 幸子 様
菅原 和枝 様
杉山 早智 様
鈴木 智子 様
(有)生活空間工房 様
関口 睦子 様
瀬野尾 秋夫 様
一般社団法人
仙台建設業協会 様
仙台市職員労働組合 様
仙台商工会議所 様
仙台地方自治研究センター 様
仙台つどいの家 職員の会 様
仙台つどいの家保護者会 様
相馬 智子 様
高嶋 邦明 様
高橋 明子 様
高橋 晋 様
高橋 伸 様
高橋 秀昭 様
高橋 みかわ 様
高橋 幹弘 様
高橋 光雄 様
高橋 豊 様
高橋 宏子 様
滝口 恵美 様
武田 幸雄 様
伊達瓦せんべい本舗 (有)一茶 様
田中 総一郎 様
田中 紀子 様
(株)丹秀工務店 様
千葉 康平 様
(株)千葉出版印刷 様
槻田 朗 様
槻田 晟 様
つどいの家 連合保護者会 様
つどいの家・アプリ保護者会 様
つどいの家後援会 様
寺嶋 則夫 様
遠見塚二丁目中央町内会 様
戸澤 慶子 様
長池 文康 様
長岡 喜美子 様
永坂 恵子 様
長瀬 良行 様
中村 友紀 様
成川 みよ子 様
根本 晋一 様
根本 真人 様
野々山 朋子 様
野村 昌恒 様
芳賀 翅子 様
橋本 あや子 様
橋本 智 様
長谷 真澄 様
土生 福子 様
濱 宏一郎 様

早川 亜矢子 様
早川 正 様
早川 實 様
早坂 きみ子 様
早坂 美和子 様
針持 哲郎 様
日野 豪 様
平田 真由美 様
平間 真澄 様
福地 真 様
舟山 清人 様
ブルームビルド株式会社 代表取締役
小関 朋宏 様
星 仁 様
星野 光子 様
細矢 直子 様
堀江 順子 様
堀口 正博 様
洪 慈乙 様
本郷 廣也 様
本田 久美子 様
前野 忠夫 様
松浦 功 様
松木 朝海 様
松田 直 様
松本 リツ子 様
マルシェ来訪者 様
丸山 政己 様
三浦 真樹子 様
皆川 信子 様
(株)三晴産業 様
みやぎ生活協同組合 様
村上 栄子 様
村上 理香 様
一般社団法人MOTTO 様
茂手木 隆 様
門真 咲枝 様
八木山つどいの家保護者会 様
八鍬 龍義 様
安室 一雄 様
谷地森 涼子 様
山内 信明 様
山内 房生 様
山口 収 様
山口 賢江 様
山田 征司 様
令和4年度第4回介護職員
初任者研修研修生一同 様
若松 勝三 様
渡邊 智 様
和田山えり子 様
匿名 154名様

総計 394 名様 16,483,657 円

《寄付者芳名の掲載について》

- 匿名を希望された方及び掲載可否の不明な方は
匿名とさせていただきますので、何卒ご了承ください。

編集後記

広報誌つどい第36号をお読みいただきありがとうございます。

梅雨の晴れ間の青空に心浮き立つ
昨今、どうぞお健やかに過ごしてください。